Welcome to Library

# ようこそ 図書館へ

中央図書館 ☎23-4946（よくよむ）
赤羽根図書館 ☎45-3426
渥美図書館 ☎33-1114
図書館HP

## ホットニュース Hot News

### ◎音訳ボランティア養成講座（初級）受講生を募集します！

音訳とは、活字での読書が困難な方のために、文字を音声に訳すことです。講座では、内容を正しく伝える読み方や声の使い方などを学びます。

▶**日時**=5月～令和6年3月の第2・4木曜日（初回は5月11日（木））午後1時30分～3時30分／全21回
▶**場所**=田原文化会館201会議室
▶**対象**=パソコンを起動・終了できる方で、原則全回出席でき、受講後に図書館で活動できる方
▶**定員**=20名（先着順）
※申込人数が4名に達しない場合、中止とします。
▶**受講料**=無料（別途テキスト代実費2,000円程度）
▶**申込**=3月14日（火）～4月16日（日）までに、直接または電話にて

▲音訳ボランティア養成講座の様子

### オススメの本

**タイニーフルーツキッチン**
タイニーフルーツキッチン/著　KADOKAWA

旬の果物を使ったスイーツで、美味しく四季折々を楽しめたら素敵ですよね。思わず作りたくなるレシピが満載です。

**カッパのあいさつ**
高畠那生/著　好学社

カッパのあいさつはとってもユニーク。後ろ向きにお辞儀をします。勢いがありすぎると…。どうしたって笑ってしまう絵本です。

History Inquiry Club

# 歴史探訪クラブ 其の230

文化財課（博物館）☎22-1720
吉胡貝塚資料館 ☎22-8060
渥美郷土資料館 ☎33-1127
博物館HP　博物館インスタグラム

## ひな人形の移り変わり

この地方で上巳（じょうし）の節句（桃の節句）にひな人形を飾る習慣が一般化したのは江戸時代後半とされており、明治・大正年間を通じて、ひな人形は庶民には高嶺（たかね）の花でした。それでも子どもの健やかな成長を願う家族の気持ちから土人形がひな祭りには送られていました。この頃のひな人形は、女びなと男びなが一対の内裏びな（親王飾り）が主流で、その後、大正の終わりから昭和の初めにかけては、御殿を中心にひな人形を飾る御殿飾りびなに交代していきました。

御殿飾りひな人形とは、御殿内外に親王、三人官女などの人形を飾り、桜や橘（たちばな）、雪洞（ぼんぼり）を配します。当初は、比較的簡素な落ち着きのある白木づくりの御殿やひな人形でしたが、次第に装飾されていきました。特に御殿は、もともと寝殿づくりの御所や神明づくりの寺社を模して作られていましたが、年代とともに大きく移り変わっています。昭和10年代には、屋根の上に金鯱（しゃち）が飾られはじめ、戦後の昭和20年代には、お城を模した御殿が出現し、昭和30年代にピークを迎える御殿飾りは、ひな人形よりも御殿が豪華絢爛（けんらん）になっています。このことは、当時の人たちの御殿のような家に住みたいという願いを象徴したものと考えられます。

昭和40年代に入ると、御殿に代わり屏風を置き、人形を全体に大きく豪華にした屏風段飾りひな人形が現れます。この形式は、概ね昭和60年代までは7段飾り、平成からは室内にコンパクトに飾ることができる3段飾りとなり今日に至ります。

現在、渥美郷土資料館では「ひな祭り展」（～3月19日まで）、田原市博物館では「ひな人形と初凧展」（～4月9日まで）を開催中です。時代とともに移り変わるひな人形をぜひご覧ください。

（学芸員　天野敏規）

▲御殿飾り（昭和30年代、渥美郷土資料館蔵